



# 和光大学 同窓会

和光大学同窓会会報 vol.12

2025年11月

ロゴデザイン：元和光大学芸術学科教授 柊 光紘



## 「水の音 221015」 高橋孝雄さん (46A)

2022年 水彩 和紙(部分) 62.8×97.3cm

長野県佐久市の稲田を見ての発想です。

ぽっかり浮いているように見える楕円や横長の形は空気の泡です。

異次元の世界を垣間見る窓口です。

卒業生を中心にした10数名で毎年「接点」という作品展を開催しています。

絵画・彫刻・工芸作品等の発表です。

コロナ禍で中断した時期もありましたが次回は第23回展になります。

皆様にお会いできることを楽しみにしています。

### 「第23回 接点」

期日 2026年3月24日(火)～29日(日) 11:00～19:00(最終日は17:00まで)

場所 長谷川画廊

〒104-0061 東京都中央区銀座7-11-11 長谷川ビル1階

電話・FAX 03(3571)1462

## contents

- 01 目次  
会費、寄付納入者一覧
- 02 インタビュー
- 04 会員だより  
俳句サロン
- 07 地区支部だより
- 09 会計報告  
同窓会の活動
- 10 大学だより
- 12 お知らせ  
編集後記

## ご協力ありがとうございました！ 会費・寄付入金者一覧 2024/9/1～2025/8/31

●会費 (28名) 飯田智之 (03E) 石田恵理 (10G) 磯崎英夫 (41E) 犬山遼 (08P) 金茂理枝 (95E) 栗原祐子 (53A) 齋藤亜久里 (11P) 齋藤光希 (25W) 柴圭嗣 (89B) 関純子 (94L) 菅谷栄子 (54L) 高橋啓子 (50L) 田島理人 (57E) 田中雄基 (25B) 千田創太郎 (25E) 寺沢みづほ (旧教員) 濱田郁夫 (54H) 早川清 (44E) 林俊光 (92L) 肥田野亨 (62H) 本田直子 (44L) 真下浩 (47H) 町田彰一郎 (旧教員) 水上雅裕 (47L) 森田圓 (42E) 森永由佳 (54H) 吉井則雄 (49E) 吉田耕次 (57L) 吉村学 (99L)

●寄附 (28名) 阿部文雄 (52L) 池川陽子 (50H) 井上明日香 (03Z) 岩川司 (46L) 打越雅祥 (52H) 大内徳久 (00E) 大野悠亜 (20W) 奥平康照 (旧教員) 小澤和典 (42E) 近伊織 (48H) 佐藤洋 (43H) 鹿間麻理 (54H) 菅谷栄子 (54L) 杉崎節子 (48L) 杉山雄一郎 (44E) 瀬川三枝子 (54H) 田嶋千由紀 (50H) 高頭健治 (63E) 高橋亮 (00D) 竹岡紘子 (02Z) 田畑博 (44E) 野田整司 (55A) 萩原保夫 (44E) 早川清 (44E) 村山健一郎 (44E) 柳沢泰子 (54H) 幸地(仲本)純子 (44H) 吉田耕次 (57L) 吉田勉 (47E)

## 異質力のしごとと沖縄・ユイマール 強い信念の刑務官、秋田・札幌刑務所長歴任

浅野賢司さん（44 E）

この人に聞く

大学時代を振り返って

「大学のあり方を考えた小さな実験大学」という理念に惹かれ、北海道の田舎から上京しました。梅根初代学長は志を共にできる先生方を集められ、一般教育には宇井純、生越忠、宮川寅雄、三橋修、安永壽延先生と、錚々たる顔ぶれが並んでいました。学生時代の私は単位が取れば十分という考えで、今になって「もっと真剣に学んでおけばよかった」と後悔しています。それでも、コアクラスの担任だった岡安仁美先生が温かく見守ってくださったことや先生方が、「共に学ぶ」という姿勢で接してくださったことは深く心に残っています。

卒業から刑務官へ

卒業後は実家の鉄工場に勤めましたが、自分の道を探したくて飛び出しました。タクシー運転手や自動車販売、損保の営業など仕事を転々としてきました。28歳のとき、「公務員を目指そう」と決意。北海道警と刑務官の試験に挑みました。北海道警は一次を通過したものの、顔面神経麻痺で二次試験は残念な結果に。その後の刑務官に合格し、国家公務員として矯正の道を歩むことになりました。

刑務官としての歩み

最初の勤務は札幌刑務所。その後、刑務官内部の昇進制度である高等科試験に合格し、研修を経て法務省矯正局勤務を経験しました。

難しい仕事

刑務官にとって最も難しいのは「問題を抱えた被収容者」の処遇です。反抗的な人、自傷行為を繰り返す人、食事を拒む人など、暴力的な人、詐病を訴える人……。数は少ないものの大きな労力を要しました。さらに大きな問題として、職員不足や施設の老朽化、魅力ある刑務作業の不足、医療体制の不備などがあります。結局は「予算不足」が背景にあると痛感します。

東京拘置所の統括矯正処遇管、水戸少年刑務所所長、川越少年刑務所所長、仙台矯正管区総務課長などを経て、秋田刑務所長、矯正研修所札幌支所教頭、函館少年刑務所所長、札幌刑務所所長を歴任しました。



心癒される沖縄の青い海

官舎での暮らし

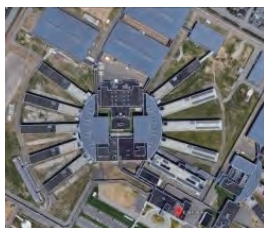
東京拘置所に勤めていた頃、友人が官舎を訪ねて「堀の中に住んでいるのか」と驚いたことがありました。実際は刑務所の敷地に官舎があるのですが、東京拘置所は入口の門が厳重で、外から見ると堀の中に住んでいるように見えるのです。刑務官は緊急時に対応できるよう、基本的に隣接する官舎に住む決まりになっています。



秋田刑務所・内部公開



東京拘置所旧本館



カニの形をした  
札幌刑務所空撮



久米島・浦島太郎と乙姫の像

拘置所・少年刑務所・刑務所の違い

拘置所と刑務所では収容目的が違います。拘置所は刑が確定していない人を収容するため、教育や刑務作業はありません。刑務所では作業や更正教育が行われます。いずれにしても秩序維持と安全確保が大きな使命であり、勤務環境は厳しいものでした。

所長としての信念

刑務所長は最終判断を担う立場にあります。もちろん上部の矯正局・矯正管区の方針を無視することはできませんが、現場で自らの信念に基づいた決断を下さなければならぬ時があります。札幌刑務所所長のとき、女子受刑者が外部病院で出産する際、通常はベッドの上でも手錠を外さないという前例に従うよう求められました。しかし私は「人としての尊厳を尊重すべきだ」と考え、独断で出産時に手錠を外すよう指示しました。職員の反対もありましたが、10年後に「出産時は手錠を外す」という全国的な方針が示され、あの時の判断は間違っていなかったと胸をなでおろしました。

沖縄での今

沖縄に移住して10年を越えました。沖縄の言葉で好きなのは、ユイマール（助け合い）、ナシクルナイサ（何とかなさ）、イチヤリバチョーデー（一度会えば兄弟）。これらの言葉は沖縄の人情をよく表していると感じます。

現在は那覇で行政書士事務所を開業しながら、ボランティアで沖縄刑務所の篤志面接委員や保護司を務めています。刑務官時代とはまた違う形で、地域とのつながりを大切にしながら暮らしています。

（インタビューア 田畑博（44 E））



## 被ばく二世として思うこと!! 受け継ぎ・語り継ぎ・広げる

坂本 登志子(45 H)

昨年、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)にかかわっているということでお声掛け頂き、寄稿することになりました。

私は長崎で被爆した母を持つ被ばく二世です。私は、日本被団協を母体組織とする「筑紫原爆被害者の会」で副理事長と事務局を兼務しています。

「筑紫原爆被害者の会」(筑紫の会)は、58年目を迎えます。地域的には、福岡県の中部に位置し、私の住む春日市を含む、筑紫野市・大野城市・太宰府市(太宰府天満宮で有名)・那珂川市の5市です。5市に住む被爆者・被爆者の家族・被ばく二世・被ばく三世・賛助会員で構成されています。現在200名の会員です。

① 人間にとって、絶対悪の核兵器をなくそう。

② 被ばくの実相を語り継ぐ。

③ 被爆者相互の連帯を深め、相談活動を充実しよう。

を三本柱にして日々活動をしています。

母は、筑紫の会の立ち上げから関わり、会の活動・運動の中心メンバーでした。

(2007年に亡くなりましたが、亡くなる数年前まで活動していました) 日本被団協の理事も長く務めました。

母の被ばく体験は壮絶なものでした。19歳の時の被ばくでした。自宅は爆心地から400m足らずの山里町でしたから、自宅にいた祖母と母の弟は骨と灰だけになっていました。母と父と妹は、爆心地から1・3kmの三菱兵器製作所大橋工場の別々の場所で働いていました。父は即死。15歳の妹は爆風で吹き飛ばされて大怪我をしました。母も建物の下敷きになり、大怪我をしますが、命だけは

助かりました。その後、妹も死にます。家族を亡くし、家を無くし、職場を奪われ、生きていく気力さえ奪われ、当時のことを「死をうらやむほどの生だった」と語っていました。それでも、怒りや憤りや恨みの鎖につながれた被爆者として生きるより、自分の体験を生かして、核のない世界をつくる道を選んだのです。被ばくの実相を語り継ぐ活動に力を注ぎました。

今年は戦後80年・被ばく80年です。体験者から受け継ぐ時間は、多くは残っていません。母から受け継いだバトンを繋いでいきます。

私は長崎に修学旅行に行く6年生への事前平和学習として、毎年40校ほどの小学校へ母の被ばくの実相を語り継いでいます。現在もこの地球上に12・340発の核弾頭があること、その数が増えていることを伝え、「自分ごと」として考えてほしいと伝えます。「核兵器を語るとき、その「威力」を語るのではなく、「一人ひとりの命にとって」「一人ひとりの人生の幸せにとって」という視点を大切に伝えます。(これは誰でもが考えられることだと思うからです)

核兵器廃絶という人類の理想を実現させるためには、すべての人の参加が必要です。核の時代を共に生きる皆さんと核兵器問題を真剣に考え合い、核兵器廃絶の展望を共に切り開いていけることを心から願っています。



小学生に母親の被爆体験を語る  
坂本登志子さん

## 子どもの好奇心を 掻き立てるもの

平野 凜人(18 P)

(和光鶴川小学校2024年度4年担任)

私は、和光鶴川小学校を2012年に卒業し、2022年に教員としてこの学校に戻ってきた。勤め始めて3年目になり、これまでに、5年学年所属、3年担任、4年担任を務めてきたのだが、大人になってこの学校に帰ってくると、改めて驚かされるのがたくさんあった。まず一つ目は、子どもたちは、知りたい・学びたいという強い気持ちに満ち溢れているということだ。中学年の総合学習では、大きな題材として、「カイコ」「カラス」「川」を学んできたのだが、授業内・外問わず、子どもたちから数えきれないほどの疑問やたしかめたいことが出されていた。カイコに触れば、ウンチの臭いや蛹の味をたしかめる子がいたり、カラスを見れば、おびき寄せるために鳴き始めたり、エサを置いたりする子がいたり、川に入れば、川底に刺さっていた鉄の棒を引っ抜いてたしかめたり、川の水の味をたしかめたり・・・(体調が心配になることもしばしば)とにかく、教員の想像をはるかに上回る「知りたい・たしかめたい」という欲求に満ち溢れていたのだ。2つ目に驚いたこととして、この欲求に応えていく(?)先導していく(?)教員の姿勢だ。私自身、この学校の卒業生なので、子どもの時は、知りたいこ

とへの欲求に忠実だったと思うのだが、大人になるにつれ、頭の中で物事を知った気になってしまいうことが多くなつたように感じている。というのも、子どもたちと学びを進めていく時間が増えるにつれて、自分の知識が通用しないことが多くなってきたのだ。子どもたちは学習の題材とリアルに出会い、体験的な学習をしていくので、カイコのウンチの臭いがどうだとか、カラスは鳴き声でおびき寄せられるのかとか、川の水の味がどうだとか、目の前の具体物を見ながら疑問を出してくるが、今の自分には体験的な知識がないので答えられない。しかし、この学校の多くの教員は、「カイコの糞って独特な香りするよね、潰したら緑色だよ」とか、「カイコの蛹の味嫌いだよ」とか「川の水、臭味があるよね」とか、とにかく自分が経験したことを基に話をするのだ。(まるで体だけ成長した子どもを見ているようだった)やはり教員が経験している話には信憑性があるし、何より、体験的な学習をしている子どもの疑問にびつたりと重なり合う。この3年間で、子どもの知りたい・たしかめたいという欲求に応えていくための「体験」を、大人になっても大切にしていきたいと思うようになった。

## 児文研ライブ開催

村一浩(53歳)

児童文化研究会(児文研)は、1966年の和光大学創立からほどなく発足し現在も活動しているサークルです。

かれこれ60年にわたって、大学近隣の地域でこども達を対象に、こども会や人形劇、親子読書会などの実践を継続しながら、オリジナル作品の創作活動もおこなっています。

学生時代の多感な感性とバワフルな情熱が集う集団は、こどもたちとのふれあいや全国に在る同種の仲間との交流を通じて、授業やバイトでは体験できない濃い時間を過ごしま



児文研ライブステージ



児文研ライブ参加者

した。

卒業生の中にはプロの劇団に所属する者や、児童文学作家、作曲家として活動する者など表現に関わる人材を多数輩出しています。

2006年に40周年、2016年に50周年の記念事業を行い、公演で使ったなつかしい教室や食堂で旧交を温める場を設けてきました。

昨年実施した「児文研ライブ」は式典ではなく皆で歌うことに徹した場として設定しました。

鬼籍に入る人も多くなり、いま「集う場」をつくらないと、もはやあの頃の人たちに会えなくなってしまう。児文研発足から現在まで変わらない求心力となっていたのは「うた」ではなかったか。青春時代にみんなが歌った歌、公演のために作ったオリジナル曲。児文研メンバーの共有財産は、声を合わせて表現する原体験でした。

7月20日、吉祥寺のライブハウスには1968年入学から現役の学生まで、実に50年の時を超えて集まった68人。バックの伴奏は、年代も様々な即席バンド。音響・照明は小屋付のフロアに任せ気持ちよく音が響きます。ライブハウスによると、最近はシルバー世代の同窓会的ライブが流行りつつあるとか。

軽食とおしゃべりのために休憩を入れたつ、準備にあたった世話人会で厳選した既成の曲とオリジナル合わせて15曲を合唱しました。また、この日のために当時の歌集を拡大複製しお土産に。

3時間余りのライブを終え、2次会は各年代ごとに分かれカラオケに…(ねえ、いつまで歌うつもり?)

時代や社会と共に変化する保育の世界、自分のビジョンを大切にして学び続ける姿勢を。

齋藤 亜久里(11歳)

私は10年程前に和光大学を卒業し、現在に

至るまで3つ程園を経験してきました。現在は小規模園のインターナショナルスクールの施設長として、日々子どもたちや保護者、スタッフと関わる中で、保育の奥深さや可能性を改めて感じています。私自身、大学で保育を学んでいた頃は、授業を通して知識を得たことを実習やボランティアなどで実践をしていたが、実際に保育の現場に立ったとき、机上の学びと現場で求められる実践力は働く場所によって違いがあることを強く実感しました。また、何が良いかどうかということとは様々な考え方があり、自分が今後の子どもたちの成長や未来にとって良いと感じることを信じて働き、行動をしていくことがとても大切だと強く感じています。

その為、学生のうちに「自分はどのような保育をしたいのか」「子どもたちとどのような関わっていききたいのか」といったビジョンを少しでも描けると、将来の仕事に向かう姿勢が大きく変わると思います。

保育や教育の世界は、時代や社会の変化とともに常に一緒に変化していきます。現在学んでいることや常識が今後は通用しないこともあり、その変化に柔軟に対応しながら、学び続ける姿勢がとても重要だと感じています。私が目指す保育は、子どもたち一人ひとりが自分らしくいきいきと過ごし、自発的に、そして意欲的に学びを深めていけるような環境であったり、価値観を想像していく事です。そのためには、子どもの気持ちや行動に丁寧に向き合い、日々の小さな成長や挑戦を見守り、失敗や成功と一緒に繰り返していく事が大切だと考えています。

今後も、子どもたちと共に学び合いながら、自分自身も成長し続けたいと思っています。そして、そうした価値観や思いを持った保育者が一人でも多く育っていけるよう、現場での経験を伝えていくことも今後は必要であり、働いていく中でたくさんのお会いや経験を大切にしていきたいと思っています。

その3

## 里山de俳句サロン

管理人・伊東類(たぐい) 44歳

いかがお過ごしですか。愈々日本も四季から二季になるかもしれないという気候変動の真只中です。そんな危機の中でこそ精神的ゆとりとしての俳句はあっても良いのではないかと想像します。というわけでもないのですが、和光大学では俳句を嗜む先生が何人かおられましたので、その先生方の俳句をご紹介しながら読みたいと考えます。

初めは初代経済学部長の関未代策先生の句集『軽井沢日記』。先生の俳号は「不鳴(ふめい)」。この句集は先生の七回忌にあたる昭和五五年三月に岡安仁美先生、水上健造先生の手により遺句集として出版されました。作品は昭和二十七年から旅行や軽井沢の別荘での出来事、郷里の北海道への思いなど旅吟から叙情的な句まで載っています。ここでは我々に直接関係する四十年ごろからの句を見ることにしました。

初詣り暖冬異変を農夫いふ 二七年  
初夢や天下の事にかかはりなし  
菜の花に裾野の風をとらへたり  
大利根を十字に切つて天の川 二八年  
寒講義足のよろめき笑ふなけれ 四十年  
今春もダス・カピタルで終講す

経済学史の講義は古典派中心で終わりはマルクスの『資本論』。筆者も二年から四年まで三年間受講しましたが、同じところで同じ洒落や余談が入り興に入ると余談で一時限が終わる時もありました。「終講す」が一年間の講義の重みを増しています。

読みつかれ春雪の樹へ瞳をすてる  
パナマ帽に齢を読まれて山仰ぐ 四二年



## 和光大学同窓会

## 『長野支部』立ち上げませんか？

## 米沢 重雄（53し佐伯ゼミ）

はじめまして、53し佐伯ゼミの米沢重雄と申します。

このたび「長野にはまだ支部がない」と知り、ぜひ立ち上げたいと思いました。

卒業してから40年以上。これまで「和光大学卒です」と口にするのも少なく、周囲からも聞かれることはほとんどありませんでした。

そんな中、先日30年ぶりに友人から電話をもらい、仲間が先生や芸術家、学童保育の立ち上げなど、それぞれの道で活躍していると知り、とても誇らしい気持ちになりました。一方で「和光出身はあまり言わないで」と話す人もいて、少し寂しく思うこともありました。

しかし、私はあの「実験大学」と呼ばれた和光に誇りを持ち続けています。自由な空気の中で学び、語り合った日々があったからこそ、今の自分があると感じています。

一方、長野の教育事情も大きく変わっています。かつては東京の大学を目指す人が多かったのに、今は県立大学の4年制や看護・IT系の学科が人気を集めています。短大が4年制に移行したり、農業高校や女子校と普通科高校が統合したりと、地方ならではの新しい学びの形も広がっています。経

済的な事情もあり、「地元で学ぶ」という選択肢が当たり前になりつつあります。

だからこそ今、和光で学んだ私たち同窓生がもう一度つながり、互いの近況を語り合える場が必要だと思っています。

昔話でも、今の暮らしでも、なんでも語り合える場を、長野に一緒につくりませんか？

ご連絡を心よりお待ちしております。



姥捨駅 / 撮影 米沢重雄



2025年7月25日 57E 田島 理人  
(右端の白いポロシャツ姿)

卒業して早40年  
皆様お久しぶりです！  
ユースホステルクラブ57・59入学組の会

生涯の稿を終れば師走なり  
春斗の大学けはし雪の坂  
今日よりは国鉄値上げおし暑し  
とまるべき枝を定めて赤とんぼ  
天の川われ丘上を愛し棲む  
門弟ら初雪積んで年賀に来  
四四年  
四五年

ゼミ生は毎年埼玉県与野のお宅へ新年の挨拶へ出掛けました。年中行事で昔話を聞きに行くということですが。おそらく他のゼミでも似たことがあったと思います。現在でも続いているゼミも有りますか。

避暑先の骨董屋に読みを教へもす  
教師われ姿勢乱さず冬帽子  
大試験靴音に悲喜秘めらるる  
木の葉髪老ひて学問なほ成らず  
先生といふ馬鹿にてもよし避暑の家  
四八年

教師としての矜持でもあり、学問の道を歩んできた振り返りでもあったのだでしょう。何か背筋が緊張する思いです。また「馬鹿にてもよし」とは教師の背中を見てのことではないでしょう。

一句の投稿がありました。加藤晴正さんの

真つすぐな目には理由を開かない 晴正

哲学的な内容でしょうか。「目は口ほどに物を言つ」と言いますが、表情や気持ちは目をみれば分かるそうです。「まっすぐな」が余計に相手の言わんとすることを物語っています。「開かない」が意味深ですね。

管理人の近詠二句、

三線にまぎれ込みたし沖縄忌  
かの世にも薔薇は枯れるか群れなして

## 四国支部設立報告

澤本 洋介 (95 R)

令和7年2月1日、高知城西館にて和光大学同窓会・四国支部の設立総会を開催しました。当日は九州からの参加者も含めて9名が集まり、世代や専攻を越えて和光時代の思い出話で盛り上がる楽しい時間となりました。開催地高知県からご参加の方でも、私は初めてお会いする方ばかりで、新しいつながりが生まれたことをうれしく感じています。

準備にあたっては、同窓会事務局の皆さまのご支援のほか、北海道支部の田畑さんからも丁寧なアドバイスをいただき、大変助かりました。心より感謝申し上げます。

次回は来年、香川県高松市での例会を予定しています。四国在住の校友の皆さま、ぜひ気軽にご参加ください。今後とも四国支部を盛り上げていきましょう。

## 四国支部発足会に参加しました！

和田 洋介 (95 R)

令和7年2月1日に、高知県高知市の城西館において和光大学四国支部総会の発足会に参加してきました。昨春秋頃に世話人の澤本さんよりご案内の郵便が届き、初めてこの様な会の存在を認識した次第です。すぐにメールにて出席の旨お知らせし、そこから楽しみ半分、四国にどの様な和光OBORGの方がいらっしゃるのか興味半分で数か月過ごし、当日久しぶりの高知入りし、そして会に臨んでまいりました。会場の城西館は、由緒ある立派なホテルで、和室の会場の雰囲気、高知の食材のお料理も素晴らしかったです。私を含め9名の方が参加されており、うち6名は高知県在住、他は福岡、徳島、香川より参集されました。四国、香川において中々普段和光の校友の方々と出会う機会が無いため、初めて

お会いする校友の皆さまと色々な話に花が咲きました。年齢も幅があり、それぞれの時代の和光の話、共通する部分等懐かしい話なども出来、楽しい時間を過ごす事が出来ました。会発足にあたりご尽力いただいた澤本さんをはじめ、地元高知の校友の皆さまに感謝申し上げます。会場で、次回は来年に香川県高松市にて開催が決まりました。今回を契機に、更なる校友の繋がりの場になる様期待したいと思っています。

## ようこそ四国支部！ 龍馬の地からつながる同窓の輪



四国支部設立総会参加者

## 南国土佐をあとにして

九州支部 岩屋 湊 (43 E)

コロナ流行のせいばかりでは無いのだが、和光大学同窓会支部は沈滞気味である。何とかしなくてはと思案中、同窓会事務局より四国支部設立総会を高知で開催との情報をいただいた。渡りに船と押しかける事にした。

土佐の高知と云えば皆さんもいくつか思い浮かぶ事でしょう。私は先ず坂本竜馬、よさこい節の「はりまや橋」、山内一豊夫妻と続きます。それに忘れてはならないのが

土佐のはちきんさん（男勝りの女性を指す高知県女性の県民性を表した言葉）。ぜひ今回会って話がしてみたい。

さて、会場のホテルへ到着。何とそこで棋王戦第一局の前夜祭が開催されていて、あの藤井総太七冠も登場していたのです。これは四国支部の発展も保証されたようなものだと勝手に確信した次第。四国支部設立総会の様子は報告をお楽しみください。

翌朝、ホテルの朝食会場では、昨夜の前夜祭に出席された棋士の方々の面々をチラ見しながらのひとときを過ごし、その後、九州福岡の我が家を目指し、ハンドルを握りました。

ところが、南国土佐とは云え二月初旬。四国山脈は雪で交通規制や通行止めとの表示におっかなびっくりの状態で、なんとか自宅へ無事帰還と相成りました。めでたしめでたし。当然女房へのお土産はどっさり買い込んだのは云うまでも無いことです。

夕食時、あれこれ話がはずんでいた時、フトはちきんさんには会えなかったなと思った。残念だったな。

いやいや待てよ、何か大事な事を見落としているぞ。設立総会出席者名簿を手に取り、ハッとしました。そこには中村佐知（旧姓野島）中根豊作ご夫妻、濱田昌子（旧姓野島）濱田郁夫ご夫妻。加えて今回のお世話役、千葉県出身の澤本洋介さんもお二人同様、奥様の地元高知へ来られたそうである。昨夜は目の前に「はちきんさん」二人との話をしていたのに全くその事も気づいていませんでした。我ながらうっかりもいいところです。押しも押されぬお二人にまたお目にかかりたいものです。



## 和光大学同窓会地方支部のご案内

各支部に参加を希望される方、また、お住まいの地域で集まりたい方は同窓会事務局までご連絡をお願いします。

**北海道支部** 2017年設立 38名

連絡先：田畑 博 (44 E)

北海道石狩市

メール tabayan03050903@yahoo.co.jp

**九州支部** 2018年設立 29名

連絡先：岩屋 湊 (43 E)

福岡県みやま市

**四国支部** 2025年2月設立 13名

連絡先：澤本 洋介 (95 R)

高知県長岡郡

メール sawamoto482@gmail.com

**山梨支部** 準備中

連絡先：赤岡 直人 (46 E)

山梨県笛吹市

**沖縄支部** 準備中

**長野支部** 準備中

連絡先：米沢 重雄 (53 L)

長野県千曲市

**東京支部** 準備中

連絡先：大淵 昶生 (20 T)

東京都町田市

メール nasy1chan@gmail.com

小野 貴史 (91 H)

東京都足立区

メール garcon@k2.so-net



## 「大学で培った温かさと小さな灯り」

北海道支部 井上尚代 (55H)

大雪山連峰の麓に広がる川と家具の街、卒業後、旭川市に暮らして四十一年になります。

在学中は一年からMFC（8ミリフィルムを扱うサークル）に所属しました。プールの「自力更生部室」と呼ばれるプレハブ小屋を拠点に活動しておりました。隣には熱気球の（くもすけ）もありました。

昨年の十月に当時の仲間から「学年の近いグループの集まりがあるんだけど来ない？」との誘いがありました。長い間、「いつか会いたいね」と言い続けてきましたが、「いつか来て今だ」と参加を決めました。四十年ぶりに再会した方もいて感激の一夜でした。「8ミリカメラからビデオカメラに切り替えるかって会議を教室借りてやったよね。」と言うと「そうだよ、あの時は・・・」とすぐに何人かから声が上がリ、私だけの記憶と想っていることを共有できる幸せに浸りました。共通の言葉を持つ仲間たちは、今も同じ感覚で語り合えるのです。後輩がセッティングしてくれた歌舞伎町のスナックに無事にたどり着き「地図アプリすごいわね！」と笑いながら再会を誓いました。

現在は近所の旭川医科大学病院で病棟の看護助手として働いており、十九年目を迎えます。最初の所属が小児科病棟だったことが長く、続けられている理由だと思います。配置転換までの十年間、多くの出会いと別れがありました。今も消化できない思いもあります。私が思い出すことで幼くしてこの世を去った子どもたちへの小さな灯になればと願っています。もちろん元気で活躍している子もいます。ある宴席で隣になった医師から「井上さん、お母さんたちの話を聞いてくれていたんですね。ありがたうございます。」と声をかけられ、心の中で自分の勲章にしています。

院内には、さまざまなサポート体制はありますが、私はその枠外にいると思っています。

人目につかない所で付き添いのお母さんから「井上さん、あのねー。」と話しかけられることがあり、それが私の役割だったのだと気がつきました。和光のキャンパスで子どもを支えるお母さんたちの明るい姿を見てきた経験が私を支えてくれているのかもしれない。

和光での四年間は押し寄せる沢山の情報の中で、ウロウロしてばかりでしたが、明るいキラキラとした思い出です。

井上尚代さん



井上さん MFC 同窓会

## 伝説の映画「翼は心につけて」

北海道支部 田畑 博 (44E)

和光学園報創立91周年記念特別号に「翼の木」によせて」と題して常務理事両角憲二氏が5ページにわたり詳細に書かれていました。「翼の木」は和光中学・高等学校の中に記念碑と共に植栽されている「ハナミズキ」のことです。骨肉腫を患いながら必死に受験勉強を頑張つて和光高校に合格し、入学式の4日前に逝去された鈴木亜里さん。告別式には亜里さんが大好きだった「翼をください」が式場いっぱい流されました。ハナミズキに翼を添えて「翼の木」と呼ばれるようになりました。また、実話を基にした「翼は心につけて ガンと闘って死んだ十五歳の少女が教えてくれたこと」の刊行本が発行されました。この本がベストセラーとなり、1978年10月映画化され、2年間で200万人の方が

鑑賞され、言わば伝説の映画となりました。2014年、紀伊国屋書店からDVDが発売され、昨年取り寄せて鑑賞しました。生きることの意味を提起してくれ、生命力の強さを教えてくれた亜里さんはたくさんの方々の胸の中に今なお生き続けております。キャストはフランキー堺、香川京子、石田えり（デビュー作）等と懐かしい方々です。このDVDを北海道支部の仲間と共に鑑賞し、感想を寄せていただきましたので紹介します。

まずは感動の一言。生きるとは？また77歳の自分にとって人生を終わるまでの生き方を改めて考えさせられました。自分も2023年に思ってもいない悪性腫瘍にて右腎臓摘出と。DVDの奇跡的な復活にまた感動。きつと皆さんに沢山考えて欲しいと言うことかしら？またその時代の風景など、懐かしく観ました。沢山、いろいろ考えさせられるDVDでした。

(41E田中恵子)

DVD「翼は心につけて」を拝見しました。大学在学中に、和光高校の生徒の話だということに耳にした記憶がありましたが、実際に映画を観るのは初めてでした。実話がもとになっているということで、本人や家族、友人たちの心情が、ドキュメンタリー映画を観るような感覚で胸に迫ってきました。特に、高校の入学者選抜会議で、「骨肉腫の生徒を合格させても在学中に亡くなってしまっても構わない。そのために生徒一人が不合格になる。」と、亜里さんを合格させることに否定的な意見が出る中、教頭が「合格は、入試時点の生徒の状況で判断すべきもの」と発言して合格とする場面は、「さすがは、和光学園！」という思いがしました。自分も高校入試で同じような経験をしたので、教育の原点を見たような、すがすがしさを感じました。

た。

(52L阿部文雄)



翼は心につけて

※この「翼は心につけて」のDVDを同窓会事務局に寄贈しましたので、観たい方は同窓会事務局までご一報ください。お貸します。

## 北海道支部交流会

田畑 博 (44E)

5回目となる北海道支部交流会が、札幌市内の会場で開催されました。全道各地から17名が参加。4名の初参加がありました。

置戸町からはご夫妻が参加。その48L平野毅さん（現・置戸町教育委員会教育長）は、学生時代を振り返り、高校の恩師から「プロレタリア文学を研究する素晴らしい教師がいる」と薦められて和光に進み「大学の理念の影響もあって教職への道につながった」と語られました。また深川市の49E齋藤雅さんは「北海道被爆者2世の会長」を務める方で、若き日の志を忘れず生きてきた人たちの話が心に染みしました。

大学を再訪した時のスライドや札幌在住の異色ノンフィクション作家の61H大倉直さんの「知られざる人物を書く」のミニ講演に耳を傾けました。大学時代の海外旅行を経て、野本三吉さん（和光の非常勤講師、前沖縄大学学長）の生き方を追う著書をまとめた経緯などが語られました。

最後は「うたごえ便よりみち」のアカーデイオン奏者・石澤佳子さんと48E馬越弘幸さんのハーマニカとのクラブ演奏がありました。その後参加者全員で「学生時代」「翼をください」などの合唱で楽しい交流会でした。



北海道支部 第5回交流会 2025.6.21

## 和光大学同窓会 2025決算・2026予算案（暫定）

2023年9月1日～2024年8月31日／2024年9月1日～2025年8月31日

## 2026年度事業計画案

### 諸会議

オンラインツールを積極的に導入し、遠隔地からの参加を歓迎します。

第11回総会 第13回評議員会 2025年11月8日（土）

### 会報

2026年11月に第13号を発行します。

### 支部活動

北海道、九州、四国支部の交流会等の活動をサポートします。

その他の支部の設立を促すための支援に努めます。

### 作品展「おかがみ」

大学のホームカミングデーの企画として開催することを念頭に実行委員会を中心に準備します。  
その他、同窓会HPの充実、在校生支援等に取り組みます。

## 2025年度事業報告

- ☆幹事会 6回開催
- ☆学長懇談会 2025/2/17
- ☆第12回評議員会 2025/11/8

### 収入の部

項 目	2025年度決算案	2026年度予算案	備考
繰越金	452,261	451,702	既卒者・旧教職員
会費相当寄付金	769,500	1,000,000	2026年度新入生
会費相当寄付金	505,000	980,000	計50名の入金
寄付	264,500	20,000	
その他	0	10,000	
雑収入	0	9,900	
利子など	0	100	
繰入金	0	0	
合 計	1,221,761	1,461,702	

### 支出の部

項 目	2025年度暫定決算	2026年度予算案	
会議運営費	250,114	290,000	
総会	0	10,000	
幹事会	118,500	150,000	年5～6回程度開催
評議員会	45,000	50,000	年1回開催
会場費	28,494	30,000	ZOOM利用料金
手当・交通費	58,120	50,000	交通費・作業費
事務局費	368,612	495,000	
消耗品	12,434	80,000	事務用品
通信運搬	80,458	100,000	ゆうメールなど
HP経費	51,560	70,000	HP契約・保守管理費
賃金	218,800	240,000	事務室開室時間アルバイト料
振り込み手数料	5,360	5,000	
事業費	151,333	385,000	
入卒業式	22,000	25,000	祝い花など
研究助成	0	0	
会報作成費	12,480	100,000	会報印刷費、原稿謝礼
印刷費	77,470	100,000	振込用紙・鏡文・同窓会案内
作品展運営繰り出し金	0	100,000	
地方支部用経費	39,383	50,000	
教職支援講座費	0	10,000	
就職支援費	0	10,000	
学生対策事業費	0	10,000	
慶弔費	0	20,000	
予備費	0	261,702	
合 計	770,059	1,461,702	

### 3差引

項 目	2025年度暫定決算	2026年度予算案	
収入の部	1,221,761	1,461,702	
支出の部	770,059	1,461,702	
差引	451,702	0	



新入生への同窓会案内  
「和光大学同窓会新聞2025」(2025/6月)



入学祝いのお花



修了証書授与(2025/3/19) 同窓会掲示板



入学登録(2025/4/5) 同窓会掲示板



## 先生からのメッセージ

## 和光大学と私

寺沢 みづほ 先生



私は1981年に和光大学文学科にアメリカ文学専攻の教員として採用され、1990年に早稲田大学教育学部教員に転出するまで、9年間和光で充実した教員生活を過ごさせていただきました。奇しくも昭和の最後の9年間と合致します。今年1月、和光大学同窓会の事務局から、『会報』に原稿を書いてほしいと依頼されたのは、私にとって青天の霹靂でしたが、こうして和光大学にまつわる雑感を書かせていただいております。

今の和光大学生は皆21世紀生まれでしょうから、1981年がどんな時代だったかお分かりにならないと思いますが、ワープロがまだ普及せず、日本中の学生も教員も原稿は全て手書きだった時代です。しかし、当初は値段が途方もなく高かったワープロがあつという間に誰でも手が届く商品となり、1985年あたりでは、教員も学生もほぼ全員がワープロを入手した頃であり、ITの夜明け時代でした。

和光大学で、学生と一緒に学んだ9年間は、とても充実した期間でした。また同じ年に英語学専攻の教員として同じ英文科に採用され、のちに日本大学文学部に転出された松山幹秀先生は私より2歳年下でしたが、学部時代と大学院時代にアメリカ留学を経験された優秀な方であり、また得意即妙のユーモアセンスを持ち合わせておられ、学生からも深く信頼されていて、私の生涯の友となりました。

家族、趣味、和光時代の思い出等々——を賑やかに語り合っています。映画監督になった蜂須賀君に、映画フェチの人たちがあれこれ突っ込んだり、校長先生になった方の仕事経験談をお聞きしたり。ガラス職人になった方の火傷の手を見せてもらいながら、経験談を聞いたりもしています。いずれにせよ皆が自分独自の人生の根を張っているのを、毎年嬉しく見えています。また、和光大学時代の思い出として、大学に遅刻しそうなった時、教員とタクシーで相乗りしたことなど、今もお話題にしています。当時の鶴川駅周辺は、今とは比べ物にならないくらい、タクシー乗り場以外何もない鄙びた場所でした。



42H 長野（旧姓 堀井） 芳明さん

## 和光大学初代学長 梅根 悟の言葉③



長野（旧姓 堀井） 芳明さん

開学したばかりの大学には新しい学問状況を求める風が吹いていた。1966年だったが、新たな大学が生まれる機運があった。自分は学問を自由に学べる体制、すなわち新たな大学の像を求めている。大学名を争うような「野暮ったい」考えに染まることを心底嫌っていた。そこへ和光大学が誕生した。

望むところであった。確か「中央公論」に掲載された「小さくともダイヤモンドのような大学を」という論考を読んで「これだ!」と思った時の感動を思い出す。執筆者はもちろん「梅根悟」であった。読了後すぐに鉛筆をとって、レポーター用紙に10枚以上だったか、感想を書きつけて梅根先生にお送りした。するとす

ぐに先生からハガキが届いて「会いに来て」との仰せである。それを見た父が驚いて、すぐにお返事をせよ、と言ったことを思い出す。

お会いした学長は、背が高く額の広い立派なお姿だった。それだけでも驚きであった。

封筒に入った内申書をお渡しして、見てもらった。これはヒドイと言われて、何分かお話ししたあと、帰りに申し込み書を持っていくように言われた。

正直言って「助かった!」と思った。内申の人間評価の欄は1〜3年まで一貫して最低であることを知っていたからである。取ってくるところがあるとは思えない。確かに、「文句ばかり」に見えたのかもしれないが、やがて起こる大学闘争、東大紛争を考えれば、僕はむしろ先陣を切っていた(笑)。

学業的には必ずしも上等ではないわが高校である。そんなに「頭のいい」生徒が入っているわけではない。だから、抵抗ばかりする僕のような生徒を邪魔に思うのは無理もない。人間評価は一貫して最低であったが、さすがに和光大学は「大学」というふさわしい高いレベルの教育機関であった。高校の評価は不問に付され、梅根学長はその代表者として、これ以上の人材はないと、当時の学長の年齢を超えた僕はつくづく思うのである。

9年間在職した和光大学の教員たちとは、私が和光を去って35年を経た今でも、毎年の飲み会は続いています。これはひとえにずっと幹事を務めてくださる方と、彼をサポートしてくれる2人のおかげです。この3人の「中心」のおかげで、毎年5月3日に新宿で集まり、和光卒業後の人生——仕事、

謝しています。

でもあると気づいたのは、他大学に転出した後でした。つまり、大学が交通の便の良い繁華街にある場合、学生と教員が自然に話すこうした時間がなく、わざわざオフィスアワーを設けることになっているのですが、少なくとも1980年代の和光大学では、学生同士や学生と教員が登下校の際に一緒に歩いて色々な話をしていました。自分の関心事を表現したり、不安や悩みを話したり、自分の生活の様子を話したり、とにかく大学への登下校は、これ自体が貴重なオフィスアワーになっているのだということに、私は転出してから気づきました。勿論交通の便が良ければ誰も皆大喜びをしますが、不便にはそれなりの貴重な効能があるという気づきにくいことを、皆様に知っていただきたいです。

## 学長就任挨拶



半谷 俊彦

同窓会の皆さま、いつもお世話になっております。学長を務めております半谷俊彦です。昨年の11月、2020年からの4年間の任期を終え、学長に再任されました。任期は前回と同じく4年間で、今後ともよろしくお願いいたします。

本学は10年前、創立50周年を迎えるにあたって「異質力で、輝く。」をUIに掲げました。「UI」はユニバーシティ・アイデンティティの略ですが、大学の理念を表すものであり、教職員の行動指針となるものです。充実した教養科目や学科の垣根を超えて学ぶ専門科目を通じて総合的知性を磨き、他方で、自由なカリキュラムと学風の中で個性を伸ばす。そのようにして、異質であることを恐れず自らの判断を信じて行動する力と、異質なものを受け入れる力とを育んでいく。そうした思いを込めた言葉です。

来々年4月1日には創立60周年を迎えます。18歳人口の減少により学生募集は厳しい状況にあります。が、今後も選ばれる大学であり続けるために、このUIのもと、教職員一丸となって教育に励んでまいります。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

長い間ありがとうございました！  
2024年3月

## 定年退職された先生方

不登校経験の学生たちと  
過ごした日々

山本 由美 先生

現代人間学部心理教育学科  
教育行政学・教育法学



最初の年から、不登校経験者の多さを感じた。ゼミの初3年生7名中4名が、中学時代からすっかり不登校を経験し、不登校に対応した高校、もしくは定時制高校を経て大学進学していた。卒業して13年後の今、うち3名が教師、3名が卒業後に社会福祉士の資格を取り（1名は取得中）、障がい者や虐待を受けた子どものケアなどの仕事に就いている。ある意味、とても和光らしい。

ある学生は、在学中から、自分が受けたような教育を経験してほしくないから教師になる、と語っていた。自分の母校と地域の関係が切れてしまっていたから、そうでない学校を卒論の対象にしたい、と、日本で最も学校と地域が結びついているとされる「宗谷の教育」の歴史がある北海道稚内市を訪れた。最近では、学校に子どもの「居場所」があるケースを調べたい、と、人口約3000人の高知県大川村の義務教育学校を訪問した学生もいた。彼は、進学高校を下ロップアウトした経験を持っていた。そこは、半分以上の子どもが都会から山村留学している、校舎に一步入るとあたたかい雰囲気を感じる学校だった。そんな学

校訪問にはいつも同行していた。

15年間、親しくなった学生たちの多くは不登校経験者で、おしなべて優秀でユニークな論文を書いた。ゼミ合宿も行ったし、大学でのバーベキューも飲み会もたびたびやって、学内で他の学生たちとのネットワークもつくっていた。自分の傷ついた経験を対象化することができて、心の傷を乗り越えて成長したことが感じられた。

そんなある学生と卒論のため、不登校問題の全国組織の大会と一緒に参加したことがあった。不登校の親たちの報告や討論の後で、「学生さんからも一言お願いします」と司会から求められた。「皆さんの発言を聞いていて、私が中学の時、お母さんが毎日「学校へ行け」と言っていたことを思い出しました。」という率直なことがばに会場が凍り付いた。親たちもまた心の傷を抱えていて、きつとそれがまだ回復していないのだ。思春期に落ち込んで、青年期に回復していくのは自然な成長の姿であり、そのために親がポジティブであることが大切だと思った。私は、彼らとの出会いから何を学んだのだろうか。

勝手に育った素敵な学生たち  
と共に

野中 浩一 先生

現代人間学部人間科学科  
衛生学・共生学



46歳での和光大への赴任は、理系畑から未知の文系系大学への転身であり、教育面では、理系教養科目を担う役割も期待されたのだろう。共同研究がふつうの理系環境育ちからすると、若くして一國一城の主である同僚研究者たちは眩しかった。研究者の私はといえば、生まれ月研究に端を発する胎児期環境学も、手を染めた双生児疫学も、凡のままだに過ぎた。通勤路の鶴見川でカワセミと出会ってからは、カメラ持参が日常になり、最後の数年は、前任の浦本さんの魂が乗り移ったのか、足もとの自然の通勤時撮影に埋没した。それは昔、大学で生物学を志向したことの遠回りの帰結でもあった。

せめて給料分くらいは教育に貢献せねばとは思ふものの、俺についてこい、悪いようにはしないから、いある種のパターンリズムは身になじまない。在職中の20年以上の「棲み処」とし、今や廊下は波打ち、床の傾斜も避けようがないG棟。A棟建設前には、ここに教員2人相部屋の研究室群があり、学生と教員の共同体の巣だったと聞いた。しかし「自由な研究と学習の共同体」という理念も、無流大学という初代学長のラベリングも、分かるようで分からない。そもそも、和光らしさ、って何だ。模索はつづいた。

研究室の半分を自由にたむろでる場として開放すると、そこに居つく学生たちが登場した。最初はおそろおそろであったが、自分たちの場は自ら創つていいのだと感してくるようになっていけば、あとはそこをアジュールとし、自由に出撃する姿を眺めていけばよかった。必ずしも偏差値エリートではない彼らが、これか

らの日本で、光を和し朗らかに生きる中核層なのだという確信は、歳を重ねるごとに増した。その一方で、最近では「根拠のない自信」をもつ学生が減ってきたようにも感じている。そうした学生たちにとつて「異質力で輝く」というのは、余計な「圧」かもしれない。異質力＝個性は、外から「教え」「授けて」ゼロから生み出すものでもない。

君の強さはとんがってるその先じゃないとこにだつて宿つてる／（中略）／俯いたままで踊つて／そこから跳ね出すスーパースポーツ／背負わずに纏つて 重力も／「好き」は手放さないで／（中略）／「槍だせ角だせ」はいらない／丸いまつらぬいて（Superball by TOMOO）貫いて巣立つた素敵な学生たちは、「私が育てた」のではなく、「勝手に育った」というのが正しい。四半世紀にわたる二度とない出会いたちに感謝している。



矢田 秀昭 先生  
現代人間学部人間科学科・スポーツ科学



鈴木 岩行 先生  
経営学部経営学科・企業論



自分の道を選び、生き方を考える時の最良の参考書!!

石原静子先生が卒業生を訪ね歩いた冊子をご希望の方に差し上げます

## 「自分らしくのびのび生きよう

### —— こんな先輩たちがいる ①～⑤」

和光大学の卒業生たちと石原静子 著



1966年から2000年まで、和光大学で心理学を教え、その後名誉教授となり、2006年、学校法人和光学園理事長に就任し、2010年12月に亡くなられた石原静子先生。

その石原先生は、後輩たちの生き方の参考になるように、そして、梅根初代学長が「大学教育の実験校」として作った和光大学の社会的検証になるよう、卒業生を訪ね歩いてインタビューを重ねました。そのインタビューをまとめた冊子が「自分らしくのびのび生きようこんな卒業生たちがいる」①～⑤です。1966年入学の第一期生から1997年入学生まで、97人の多彩な卒業生が登場します。

各巻の目次を同窓会HPで紹介していますので、参考にしてください。

希望者は、希望巻数、冊数、名前 学籍番号（入学年、所属学科）送付先を同窓会事務局 dousoukai@wako.ac.jp までお知らせください。

たいへん恐縮ですが、送料はご負担下さい。

## 本棚 先生方の 著作



「あなたの知らない  
神話世界の生き物」  
名誉教授  
松村 一男先生



「21世紀アジア市場  
と日系企業」  
経営学科  
村田 大学先生



「不登校のあの子に  
起きていること」  
心理教育学科  
高坂 康雅先生



## 鶴川今昔③

和光大学のある鶴川

### 【地名】

- 1889年（明治22年）複数の村が合併「神奈川県南多摩郡鶴川村」誕生
- 1927年（昭和2年）小田急線鶴川駅開業

### 【地域特性】

- 1859年（安政6年）横浜港開港、明治中期まで八王子で生糸生産が行われ、横浜港まで運ぶための「絹の道」があった

### 【自由民権運動の拠点】

- 明治時代には自由民権運動が各地で行われており、鶴川地域では主に石坂昌孝氏が融貫社を率いて盛んに活動していた

和光大学初代学長梅根悟先生が

絹の道＝多文化吸収 自由民権運動＝自由主義の根っこのある地に和光大学を開かれたことは、偶然かもしれませんが、大学の理念にあったことかと思われま

（和光大学同窓会 会長 窪田美加）



## 和光大学同窓会永年会費・寄付の納入のお願い

同窓会永年会費・寄付をお寄せいただいた方々には心から感謝申し上げます。会報の発行・発送費用、地方支部活動、在校生向けの活動など、同窓会の活動に必要な費用は、会報送付時に皆様が納めてくださる会費・寄付でまかなっております。同窓会の安定した活動のために、ご協力、ご支援をどうかよろしくお願いいたします。

会費を納入したのに、会費等納入者一覧に名前がないなど、会費について疑問がある場合は、恐れ入りますが、同窓会事務局（dousoukai@wako.ac.jp）までお問合せください。

## ！！寄付のお願い！！

9pの収支報告でもわかるように、同窓会の財政は危機的状況になっています。会費の発行、「おかがみ」展、支部活動などの同窓会の活動が続けられるように、一口（5000円）から、寄付をお寄せいただけるよう、お願いいたします。

●和光大学同窓会永年会費（分割納入可） ￥20,000 寄付、カンパ いつでも受け付けております。

## 会費・寄付等振込先

- ・ゆうちょ銀行 00140-7-449809 和光大学同窓会
- ・ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振り込み

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
預金種目	当座
店名	0一九（ゼロイチキョウ店）
口座番号	0449809

必ずお名前に学籍番号を添えて下さい

## 同窓会事務局より

住所・氏名等の変更、メッセージ、会報の送付希望等は右下のQRコードよりお願いします。

## 和光大学同窓会評議員募集！

年に一回、総会の前に同窓会の活動をチェックする会議です。同窓会への思いや、疑問、提案を気軽に伝えたり、問題提起できますし、会議後の交流も。会議はオンライン方式を取り入れていますので、遠方の方も参加できます。お近くの方は久しぶりに母校へ足を運ぶ機会にもなります。

## 和光大学同窓会地方支部世話人募集！

同窓生のつながりで、親睦・交流をはかってみませんか？同窓会はそれぞれの地域での卒業生の交流が盛になると良いなと思っています。身近なところで支部を立ち上げてみませんか？その世話人を募集します。

現在、2～3名の世話人で北海道支部、九州支部、高知支部が立ち上がり、交流を深めています。山梨、沖縄、東京で支部立ち上げの動きがあります。支部立ち上げに際しては、同窓会事務局をはじめ、支部立ち上げの経験者である各支部の世話人が全面的にバックアップします。

評議員、地方支部世話人、それぞれ興味のある方は同窓会事務局（dousoukai@wako.ac.jp）までご連絡ください。

## 会報原稿募集！

近況報告、俳句サロンへの投句、活動・著作物の紹介、展覧会等催し物の案内を同窓会事務局（dousoukai@wako.ac.jp）までお寄せ下さい。同窓会HPでもご紹介します。

和光大学同窓会会報を受け取っていないご友人がおられましたら、事務局までご連絡ください。会報をお送りします。

## ◇ 編集後記 ◇

2017年に北海道支部、2018年に九州支部が立ち上がり、それぞれの地で卒業生が交流しています。山梨支部の世話人もあり、その後新たな動きがなかった同窓会地方支部ですが、コロナ禍を経て、四国支部が立ち上がり、長野支部が呼びかけられました。2024年の評議員会では東京支部の世話人立候補もありました。各地方支部の卒業生たちは、身近に住む新たな仲間と、東京の片隅の小さな大学での4年間を語り合って懐かしさと発見に満ちた時間を過ごすことに、大きな喜びを感じています。

同窓会はその喜びを希求する卒業生を全力で応援、サポートします。どうぞ、同窓会事務局までご相談ください。2026年、大学は創立60周年を迎えます。

柳沢 泰子（54H）



通信・メッセージ  
はこちらへ



会報送付（送付先  
変更・送付停止等）  
はこちらへ

## 和光大学同窓会事務局

〒195-8585 町田市金井ヶ丘5丁目1番1号  
和光大学内 和光大学同窓会事務局

Tel&Fax : 044-949-0008

Email dousoukai@wako.ac.jp

開室日／月曜日11時から15時



同窓会HP <https://wako-daigaku-dousoukai.info/>  
和光大学HP <http://www.wako.ac.jp>